

神戸大学 国際人間科学部同窓会

紫陽会



神戸大学
国際人間科学部



神戸大学
国際文化学部
総合人間科学研究科



発行

神戸大学 国際人間科学部同窓会紫陽会 会長 青木荘一郎

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-2-19

電話：078-371-6322 FAX：078-371-6306 郵便振替：01140-0-84600

印刷

交友印刷株式会社

電話：078-303-0088 (代)

目次

☆次代に繋ぐ ごあいさつ

紫陽会新会長 青木 莊一郎	4
紫陽会前会長 宮嶋 昭周	5
神戸大学理事・副学長 岡田 章宏	6
※国際人間科学部 オープンキャンパス	7
国際人間科学部長 櫻井 徹	8
国際文化学研究科長・国際文化学部長 西谷 拓哉	9
国際人間科学部副学部長 岡田 修一	10
人間発達環境学研究科長・発達科学部長 青木 茂樹	11
翔鶴会会長・紫陽会副会長 近藤のぞみ	12

国際文化学部・大学院国際文化学研究科 13

子どもたちに音楽を届ける	国際人間科学部グローバル文化学科 門田 菜奈
世代交代	国際人間科学部グローバル文化学科 松本 陶矢
元町映画館にお越しく下さい	国際文化学部地域文化学科（2005年卒）住田 明世
ホームカミングデイ学部企画、卒業・修了記念謝恩会 報告	

発達科学部・大学院発達環境学研究科 18

垣根を越えて	発達科学部人間環境学科自然環境論コース 横山 優花
ホームカミングデイ学部企画、卒業修了祝賀会 報告	

「紫陽会賞」授賞式 20

第14回ホームカミングデイお知らせ 21

会員だより 23

・ 姫路支部の活動	鍛示 芳子
・ 教育学部1期生（米寿）同期会	鈴木正二郎
・ 伝えたいこと	川崎チヨ子
・ 地域小学校との関わり	東田 るい
・ 船級協会の話	金田 守
※人物クロッキー会へのお誘い	
※紫陽会会員の皆様にお願ひ（人間発達環境学研究科キャリアサポートセンター）	
※BKB PROJECTにご協力を KU-NET 投稿のお願ひ	

令和元年度評議員会報告・資料 30

- ・ 平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画
- ・ 平成30年度決算及び令和元年度予算
- ・ 令和元年度評議員一覧

事務局だより 34

- ・ 物故会員一覧
- ・ 第11回学部支援基金委員会報告
- ・ 学部支援金へのご協力ありがとうございました
- ・ 会員の皆様のご協力・ご支援を ―特別維持会費 学部支援基金―
- ・ 会員寄贈図書 ―その後の状況―
 - ※神戸大学附属図書館利用のおすすめ
- ・ あじさいの小径



次代に^{つな}繋ぐ

これは鶴甲第一キャンパスから鶴甲第二キャンパスを見た写真。（図録神戸大学教育学部五十年史より）当時、鶴甲第一キャンパスは、教養部。1963（昭和38）年教養部が設置され、最初の学舎が竣工、神戸大学最初の1年半を全学部の学生がここで学んだ。鶴甲第二キャンパスは、教育学部。1968（昭和43）年、新校舎が完成し赤塚山から移転した。約50年前の様子である。

鶴甲地区では、2018（平成30）年、まち開き50周年の記念式典が行われた。

鶴甲は、1960（昭和35）年に都市開発モデル第1号として標高327mの鶴甲山を切り崩して開発が始まった。1968（昭和43）年から入居が始まり、新しいまちは大勢の住民でにぎわった。現在は高齢化等で世帯数が減少しているが、新しい鶴甲会館の建設、団地のリノベーション、公園の拡張リニューアルなど、若い世代を呼び込んで、まちの活性化を進める取り組みが続いている。

この50年ほどの間に、神戸大学も大きく変化してきた。

1992（平成4）年、教養部を改組し、国際文化学部を設置。同じく1992（平成4）年、教育学部を改組し、発達科学部を設置。2007（平成19）年、神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院国際文化学研究科および神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置。そして、2017（平成29）年には、国際文化学部と発達科学部を再編統合し、神戸大学国際人間科学部が設置された。

2020（令和2）年3月25日（水）、学位記授与式が行われ、国際文化学部と発達科学部それぞれの最後の卒業生を送り出す。彼らは、どんな成果や心を国際人間科学部の後輩たちに伝えていくのだろうか。

同窓会が、有志によって初めて結成されたのは1953（昭和28）年。その後様々な課題を解決しながら現在の紫陽会が新しく出発したのは、1995（平成7）年阪神淡路大震災の年だった。

会誌「紫陽会」は今回40号、これを一つの区切りとする。2020年度は、翔鶴会（国際文化学部同窓会）と旧紫陽会（発達科学部同窓会）が名実ともに国際人間科学部同窓会として協同する初年度と記憶にとどめ、会誌も「紫陽会 No.1」から新しく始める。



新しい時代と紫陽会

紫陽会 会長 青 木 莊一郎

この度、紫陽会会長を宮嶋前会長から引き継ぎました青木です。宮嶋前会長には8年余の長きにわたり、本同窓会の運営・発展にご尽力いただきました。特に国際人間科学部の誕生に伴う、発達科学部同窓会「紫陽会」と国際文化学部同窓会「翔鶴会」の統合にあたっては強力なリーダーシップを発揮され、新生「紫陽会」の組織を確立された功績は大であります。本当にありがとうございました。その後を継ぐにはまだまだ未熟で微力な私ではありますが、会員の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、本会の発展に少しでもお役に立てればと思っております。

さて、時代は「平成」から「令和」へ、大学もその変わり目に合わせるように今年度で国際文化学部発達科学部入学の学生が卒業し、国際人間科学部への再編がほぼ完了します。新しい学部を目指す学生像や、特長については、学部長をはじめ他の方の稿におまかせしたいと思います。教育学部から続く「人から学び、人を活かす」精神は、新しい学部になっても引き継がれていくことを願っています。そして、紫陽会としても新しい国際人間科学部の同窓会として以下の3点を重視し活動を進めていくつもりです。

1. 現役学生の支援

国際人間科学部の特色あるカリキュラムである「グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）」の実施にあたっては、学生の経済的負担も大きくなることが予想されます。今まで「学部支援金」「グローバル人材育成基金」等の形で就学支援をしてきましたが、今後は設備・備品とのハード面の支援もさることながら、より直接的に学生の学習環境と研修活動に反映される形での支援形態にシフトしていければと思っています。

2. 新学部同窓会としての活動の検討

二つの同窓会が統合して新生「紫陽会」が生まれました。それぞれの学部の特徴や卒業生の活躍の場も異なります。その良さを融合していく取組を考えていかなければなりません。広報誌の内容やホーム・カミングデー、卒業祝賀関係事業への支援など、国際人間科学部の卒業生が誕生する令和2年度末を目途に、より会員のつながりを深めるような活動を模索していきます。

3. 支部活動や年次活動等の支援

会員数は神戸大学同窓会の中でも有数の会員数を誇る紫陽会です。それだけに同窓会全体で会を持つことは不可能に近いです。ぜひ同窓生としてのつながりを、それぞれの支部合計とに、年次ごとに、あるいは学科ごとに深めていただければと思っています。事務局として、そのような活動を支援し、広報等で広めていくことで同窓会の活性化を図ってきたいと思っています。

最後になりましたが、日頃より本会の活動にご理解とご支援をいただいています大学当局にあらためてお礼申し上げます。学部長をはじめ大学関係の方と、常に情報交換や意見交流をさせていただき、両者の現状や課題を共有し、活動を進めていけるのは紫陽会の素晴らしいところです。これからも、大学との良好な関係を維持発展させ、同窓会活動の充実を図りたいと思います。

会員数は新学部の誕生によってさらに増加していきます。その会員をつなぐ、そして準会員を応援する同窓会活動をめざしてがんばります。ご協力、ご支援よろしくお願いいたします。



「繋ぐ」ということ

紫陽会 前会長 宮 嶋 昭 周

新会長青木荘一郎さんに会務を引き継ぐことができた。抜けるような青空の下で迎えた「令和」という時代とともに、清新な気持ちで今日を過ごすことができることを喜ばしく思う。

国際人間科学部が誕生して3年となる。

グローバルな視野を持つ実践人(Global Issue^{注1})を共感を持って受け止め、共生社会の実現に貢献する人材)の育成を目指した国際文化学部と発達科学部の統合は今日的課題に応える英断であった。

(注1) Global Issue: 地球上の各地で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等の諸問題を地球規模で考え協同して解決すべき課題

海外に留学してGlobal Issueを目の当たりにする研修を必修化するGSP(Global Studies Program)は、複数言語のコミュニケーション能力を習得する充実した学修環境との相乗効果で素晴らしい成果を上げることであろう。

グローバル文化学科、発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科の四学科での学びは、「異文化理解」「人間発達」「環境共生」をベースとした多様な専門知識を機能させる教育プログラムによって、実践的課題解決能力を身につけた人材輩出に大きく寄与することと思う。

私たちの学部の源流は、明治5年(1872)に発布された学制の施行で明治7年(1874)に設置された兵庫県師範範習所までさかのぼる。以来、『人から学び、人を活かす』実践人の育成を学是として二万人を超える卒業生を輩出してきたが、新しい学部の創設によって、より幅広い視野を持った実践人が誕生していくことになる。

平成4年(1992)に教育学部と教養部を改革分離し、新たに国際文化学部と発達科学部が発足して

25年が経過したが、少子高齢化の急速な進行、限界集落の多発と都市人口の膨張等々の社会構造の急激な変動で、それぞれの学部の良さを活かした新学部の創設が求められ、平成29年に神戸大学の新しいミッションとして国際人間科学部が創設されたことは時機を得たものであった。

昨年のホームカミングデイにおける国際文化学部企画のテーマは「グローバル^{注2}に生きる…」であり、発達科学部のそれは「知りたい、伝えたい、繋ぎたい…」であった。前者は『グローバルな学びを地域に活かす』ことの大切さを、後者は『学部創設に至る歴史と伝統を知り、繋ぐ』ことの大切さを、それぞれ在学生を含む卒業生に統合を機に再確認しようという呼びかけで、いずれも時機を得たものであったことに深く感銘すると同時に、新しい学部到来を託す思いが一層高まったことを思い出す。四つの学科で学ぶ幅広い学修の中に教員養成が外されなかったことは、神戸大学がグローバルに生きる意義を重要視してくれたからに他ならない。

(注2) 原文のまま引用。グローバルとローカルを重ね合わせたもの。詳細はP12参照。

国際人間科学部の創設は、現代に生きる神戸大学が『繋ぐ』ことの大切さを具現化したものであり、そこで学ぶ学生諸氏へのさまざまな支援は、私たちの願いを繋ぐ意味からも意義深いものである。これからも大切にしていきたいと強く願う。

会長を辞するにあたり、会員の皆様からいただいたご厚情に厚くお礼申し上げます。

これからも青木新体制に対し、今まで同様に一層のご協力をお願いして退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



ごあいさつ

紫陽会会員のみなさまにおかれましては、ますます
ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃
より、国際人間科学部、発達科学部、人間発達環境
学研究科に暖かいご支援をいただき、誠にありがと
うございます。

さて、私儀、本年3月、国際人間科学部長を退任
いたしました。宮嶋昭周前会長をはじめ紫陽会の皆
様には、人間発達環境学研究科長・発達科学部長に
就任して以来、本当にお世話になりました。その間
に、国際文化学部と発達科学部は再編統合され、国
際人間科学部が設置されましたが、それぞれの同窓
会である翔鶴会と紫陽会におかれましても組織を一
つにまとめ、2018年4月より会員数2万人を超え
る新生・紫陽会として再出発していただきました。
その過程においては、両同窓会の皆様に心身ともに
たいへんなご苦勞をおかけしたと恐縮しております。
この一大事業を円滑に進めていただきましたこと
に、深く敬意を払うと同時に心から感謝申し上げます。
そして、私自身、この6年の間に皆様からい
ただきましたひとかたならぬご厚情に、あらためて
御礼申し上げる次第です。

4月からは、国際人間科学部長は櫻井徹教授に、
副学部長は岡田修一教授にバトンタッチし、完成年
度である2021年度までこの学部をリードしていた
だくことになります。私の方は、教育・入試担当の
理事・副学長を拝命することになり、共通教育担当
の副学長に就任された大月一弘教授とともに、大学
執行部に入ることとなりました。大月教授とは、国
際文化学部長、国際人間科学部副学部長として、文
字どおり苦楽をともにしてきましたが、今後もまた
協力し合って神戸大学の教育を少しでも良くしてい
きたいと考えています。

ところで、神戸大学はどこへ向かって進もうとし

神戸大学理事・副学長 岡田 章 宏

ているのか、この点は卒業生の皆様にもぜひご理解
いただきたいと思います。今の私の立場からします
と教育の領域に限定されますが、この場を借りて、
大学全体の観点から簡単に説明させていただきます。

ご存じのとおり、国立大学は2004年に法人化さ
れました。このことにより、大学の「自立性」「自
律性」は高まったものの、国立である以上、国民の
期待に応える活動を行う責任はかつてとは比べもの
にならないくらい重くなったと言われます。そのた
め、文科省は6年ごとに各大学に中期目標を定め、
その期間が終了すると各大学はその成果を評価され
ることになっています。現在は、2016年から2021
年までの第3期目の中期目標期間にあたり、その後
半に入ったところです。

この間、国立大学に強く求められているのは、
「社会変革のエンジン」になることです。「グロー
バル化」「デジタル化」といった動きが急速に進行
する一方で、国内では「人口減少」が深刻化し、国
際情勢はますます混迷化しています。こうした状況
のもと、新たな時代に向けて作り上げようと模索
しているのが、「持続可能ですべての人を包摂する
インクルーシブな経済社会システム」（文科省はこ
れを「Society 5.0」と呼び、それにむけて国連に
より掲げられた行動目標が「持続可能な開発目標
（SDGs）」です）です。大学は、それぞれの強み
と特色を活かしてこのシステムを実現する「エンジ
ン」たれと言われるわけです。

神戸大学は、第3期中期目標期間が始まる直前に
「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学へ」
という「武田ビジョン」（2015年）を掲げ、そのな
かで教育に関しては「地球的諸課題を解決するた
めに先導的役割を担う人材を輩出する」という目標
を定め、「大学改革」を進めてきました。いうまでも

なく、国際人間科学部の設置（2017年）はそうした「改革」の目玉でしたし、その実績は既に各方面から高く評価されています。しかし、「改革」はそれだけでなく、教養教育の再編もまた2016年から開始された大きな取組です。俗に一般教養といわれた科目を「基礎教養科目」「総合教養科目」「高度教養科目」に分類し、それぞれにおいて身に着けるべき能力を「複眼的に思考する能力」「多様性と地球的課題を理解する能力」「協働して実践する能力」とし、それらを神戸大学の学生が卒業までに身につけるべき共通の能力、「神戸スタンダード」として定めたのです。さらに、その能力の涵養に向けて、1,2年次を対象に「学びの動機付け」を目的とした海外派遣プログラム「神戸グローバルチャレンジプログラム」の実施、そして海外派遣を促進するた

めの2学期クォータ制の導入などの新たな試みも進めています。

これらはいずれも「課題発見・解決型グローバル人材」の育成を目指す実践的な取組である点で、上に述べた「持続可能ですべての人を包摂するインクルーシブな経済社会システム」につながるものと言えます。むろん、現時点でいくつかの課題はありますが、神戸大学がこの壮大な目標に向かって着実に進みつつあることは確かだと思います。そして、微力ではありますが、私も、今しばらく、こうした取組を支えていこうと考えております。

紫陽会のみなさまには、どうかこの点をご理解いただき、国際人間科学部のみならず、神戸大学全体にも温かいまなざしを向けていただき、これまで以上にご指導を賜りますようお願い申し上げます。

国際人間科学部

国際人間科学部は、2017（平成29）年4月 国際文化学部と発達科学部を再編統合して設置されました。

《学生数》

神戸大学概覧2019より 令和元年5月1日現在

学 部	入学定員	志願者数	入学者数	総定員	在籍者数
国際人間科学部	370	1,552	382	1,120	1,146 (718)
国際人間科学部・3年次編入学	10	18	4		

注）在籍者数の（ ）は女子を内数で示す。



神戸大学では毎年オープンキャンパスが開催され、大勢の高校生が参加しています。国際人間科学部では8月8日（木）に実施しました。

国際人間科学部には、グローバル文化、発達コミュニティ、環境共生、子ども教育の4つの学科があります。

上の写真は、グローバル文化学科がある鶴甲第一キャンパスで、本学部の教育の特色の一つである

GSP（グローバル・スタディーズ・プログラム：学生全員が海外研修と国内外でのフィールド学修に参加）について、参加した学生が説明している様子です。当日、生徒1,458人、保護者543人が参加しました。

また、下の写真は、発達コミュニティ、環境共生、子ども教育の3つの学科がある鶴甲第二キャンパスで、発達コミュニティ学科の芸術系プロジェクト授業・成果発表での学生パフォーマンスの様子です。当日、生徒1,647人、保護者605人が参加しました。





国際人間科学部の完成に向かって

国際人間科学部長 櫻井 徹

紫陽会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。岡田章宏初代学部長のあとを継いで、2019年4月1日付けで国際人間科学部長を拝命しました櫻井徹です。任期は2年になります。どうぞよろしくお願いいたします。

国際人間科学部が2017年4月に第1期生を迎えてから、2年余りが経過しました。第1期生が卒業するまで1年半余りとなった現在、私の主たる任務は次の2つだと考えています。

第1に、本学部のカリキュラムの重要な特長であるGSP(グローバル・スタディーズ・プログラム)をいかに実り多いものにできるか、です。最新の取りまとめによると、第1期生(編入学生4人を含む)はすでに、実践型GSコース(海外スタディツアー、インターンシップ等)に169人、研修型GSコース(海外語学研修、サマースクール等)に141人、留学型GSコース(交換留学等)に68人が参加しました(参加予定を含む)。これらの数字は、複数のGSコースに重複して参加した学生数を含みますので、現時点では第1期生371人が海外研修に参加していることになります。幸い、これまで大きな事故は起きていません。

海外での経験は、それぞれの学生にとって大学での学修やキャリア形成の大きな転機となっているようで、それはまさにGSPが目的の1つとするところですが、しかし、大学として一番重要なのは、海外研修それ自体から多くを感じとることだけでなく、学生が、海外の体験で得た新しい問題意識や視点を、専門的学修を通じて理論的な知識へと展開する

ことだと思っています。外国語能力のみならず、そのような専門的知識こそが、現代社会が大学教育に期待していることではないでしょうか。これをなしとげることも、そのように指導することも決して容易ではありませんが、本学部の教員すべてが留意しなければならない重要な任務だと考えています。

もう1つの任務は、同窓会の統合の“完成”のお手伝いをすることです。第1期生が入学した2年前に、発達科学部同窓会の紫陽会と国際文化学部同窓会の翔鶴会とが無事統合されました。これはひとえに、当時の宮嶋昭周紫陽会会長、近藤のぞみ翔鶴会会長をはじめ両同窓会の役員の皆様のご尽力の賜物です。他方、早くも来春、国際文化学部と発達科学部の最後の学年である2016年度入学生——の多く——が本学を卒業していきます。鶴甲のキャンパスに学ぶのがほとんど国際人間科学部の学生になる来年度以降、国際人間科学部長として、どのように紫陽会様と国際人間科学部の学生及び前身の両学部の卒業生との間を“橋渡し”できるか。今後も、紫陽会の役員の皆様とご相談しながら、この仕事に力を注いでいきます。

以上2つの任務とも、紫陽会様の継続的なご支援なくしては完遂できない事業だと考えています。今後ともいっそうのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



過去・未来・そして我等は

国際文化学研究科長・国際文化学部長 西谷 拓哉

紫陽会会員の皆さまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この4月より櫻井徹・前研究科長のあとを受け、国際文化学研究科長・国際文化学部長を拝命しております。その前の2年間は国際人間科学部GSPオフィス室長を務めましたが、その間、紫陽会の皆さまには大変篤いご支援をいただいたことに感謝申し上げます。また、紫陽会と翔鶴会も統合され、国際文化学研究科・学部の修了生・卒業生も紫陽会の一員としてお世話になっており、この点でも大変ありがたく存じております。

私も神戸大学に着任して33年目となりますが、教養部改組以来、学部・研究科とも改組に次ぐ改組を経験してきました。その歴史を振り返るとき、過去・現在・未来の人間について歌ったある詩が思い浮かびます。「我等は／過去の人間から受け取ったものに、／我等の精神と労働とを加味して、／未来

の人間に渡すものである。／出来るだけよくして渡したい。」（武者小路実篤「我等は」）時代に応じて大学組織は変わっていきますが、しかし、この詩にあるように、過去の精神を引き継いで、在学生を含め、今後卒業していく人たちによりよい将来が開けていくよう微力を尽くす所存でおります。

神戸大学全体も様々な改革の波に洗われていきます。大きな課題の一つは、教育・研究における「国際化」ということでしょう。国際文化学研究科においても、長期留学、海外研修に参加する学生の増加を図るとともに、グローバルな交流の中で先端的・学際的な文化研究を推進していき、今後の大波、荒波を乗り越えていきたいと考えております。過去・現在・未来、この三つの時代をつなぐものとして、同窓会の皆さまからどうかご支援とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



鶴甲第1キャンパス





退任のご挨拶と御礼



国際人間科学部副学部長 岡田 修一

紫陽会の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、人間発達環境学研究科および発達科学部に多くの温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

私儀、この3月末をもちまして、人間発達環境学研究科長および発達科学部長を退任いたしました。3年間の在任中には、前会長の宮嶋昭周さまをはじめ紫陽会の皆さまに格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

国際人間科学部では「深い人間理解」と「他者への共感」という理念のもと、実践的な教育が行わ

れています。長年にわたり国際文化学部と発達科学部が守ってきたマインドが国際人間科学部の学生達を育てる底流となり、これまで受け継がれてきた有形・無形の「知」がいっそう発展するものと期待しています。

紫陽会の皆さまには、この「知」の継承者であり、これからの未来を創っていく学生達のために、引き続き、ご声援とご支援をお願いする次第です。

最後に、皆さまの今後ますますのご健勝とご活躍を祈念し、退任のご挨拶と御礼とさせていただきます。

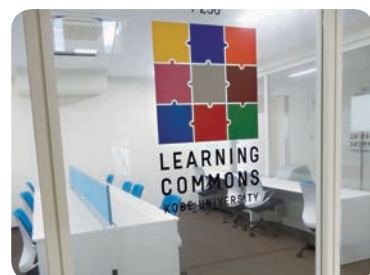
鶴甲第二キャンパスの、学生が自由に活用できるスペース



Dルーム ラーニングcommons (A棟1階)
1人でもグループでも活用できる



就職活動資料も整備



F棟2階 ラーニングcommons



F棟2階 カフェ





人間発達環境学研究科長・発達科学部長への 就任にあたって

神戸大学大学院人間発達環境学研究科長・発達科学部長 青木茂樹

本年4月より人間発達環境学研究科長・発達科学部長を務めることになりました青木茂樹です。よろしくお願いいたします。

発達科学部が発足する何年か前に、大学院修了後の最初の就職先として神戸大学の教養部に着任し、発達科学部発足と同時に教養部から移籍して来ました。

その当時は「助手」という文字通りの一兵卒だったのですが、発足当時は日本で初めて学部名に「発達」という語を冠する新学部として、教育学部からの歴史・伝統を引き継ぎつつも、それまでとは違った新しい教育・研究の場を創り出すために、先生方がそれぞれに試行・模索をされていたように思います。

そういう意味で、新たに発足した国際人間科学部

も国際文化学部と発達科学部さらには教育学部の歴史・伝統を引き継ぎつつも、新たに誕生した学部として、いろいろなチャレンジができるチャンスの時期を迎えていると思います。

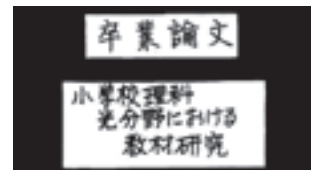
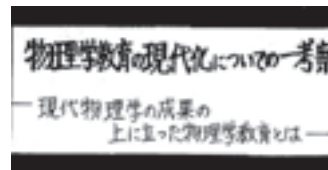
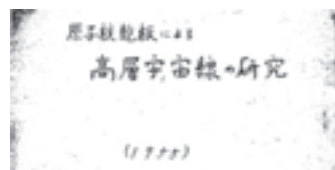
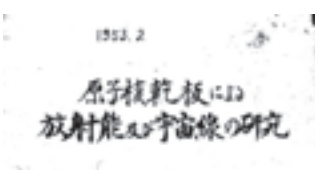
国際人間科学部、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科はさまざまな分野の研究を行うさまざまな教員からなる組織です。複眼的な視野と多様な価値観を互いに尊重し合うことを通じて、色々な立場の人たちと協働できる間口（守備範囲）の広い卒業生や研究成果を輩出することに貢献できればと思っています。

同窓生の皆さまには、さまざまな形でのご協力・ご相談をお願いする場面もあるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

最近、教育学部時代からのものを整理しておりましたところ、教育学部中等理科物理の第1期生から歴代卒業生の、原稿用紙に手書きの卒業論文が100冊余り見つかりました。

ごく一部の方には直接お返しすることができたのですが、大半はまだ私の手元にあります。紫陽会会員あるいはご家族から返却や閲覧のご希望があれば応じたいと思っています。

掲載の画像は、その表紙の一部です。最も古いもので1953年でした。



確認をご希望の方は、下記連絡先までメール、FAX等でお知らせください。

※連絡先 メール：aoki@kobe-u.ac.jp

FAX（総務係）：078-803-7939



「グローバル」という視点での「グローバル」

国際人間科学部が創設されて3年目を迎えました。国際文化学部および発達科学部としての最後の学生は4回生となり、今年度3月にはその多くが卒業となります。そしていよいよ来年度末には、国際人間科学部の卒業生が誕生します。国際人間科学部では、学生全員が海外研修とフィールドワークに参加する、グローバル・スタディーズ・プログラムを取り入れているということで、今後、国際的な視野と実践的なアイディアで、様々な社会課題に取り組み活躍する人材が、輩出されるものと期待しています。

思い返してみれば、私が学生の頃は、グローバルという言葉がキーワードでした。ちょうどコンピューターとインターネットが一般的に普及しつつあり、世界との距離がどんどん縮まってきていた時代です。国際的な視野と地域的な視点は、言うなれば車の両輪のようなものであり、地域で地道に活動するのも国際的な視野を持つことが大切で、国際的に活躍するのにも地域的な視点が必要である、そのようなメッセージが「グローバル」という言葉に託されていました。

それから約20年。この「グローバル」という視点は、現代の日本において、ますます重要になってきていると感じています。街中を見渡せば、コンビニやファミレスの店員で外国の方を目にすることは珍しいことではなくなりました。また、外国人人材の受け入れを拡大する改正出入国管理法の適用がスタートし、日本の経済・社会を支える重要な一員となりつつあります。日本社会のグローバル化は、もはや始まっています。外国人労働者の受け入れは、日本人が少子化により足りなくなった部分を単に補うのではなく、日本が多様性を受け入れ、豊かな発

翔鶴会会長・紫陽会副会長 近 藤 のぞみ

想を生み出し、国際的に魅力のある社会になるためのチャンスと考えます。しかしそこには、今までとは違った視点で考え、解決策を導き出す必要のある様々な課題が、次々と明らかになってきています。人口、教育、貧困、差別、環境、女性……。グローバルイシューは外国の問題ではなく、日本を含めた世界の問題なのです。

グローバル・スタディーズ・プログラムの特色は、学生が海外にいくだけでなく、フィールド学修につなげることと伺いました。国内外の実地体験を通して、大学で学んだこと、海外プログラムで学んだことを、生涯にわたって「使える」理論・知識として、昇華していくのだらうと理解しました。私は、神戸で文化事業に携わっておりますが、一般的に娯楽と思われるがちなこの世界でも、グローバルイシューと無縁ではありません。しかし、現場は理論だけでは太刀打ちできません。多くの変数があるからです。理論と実現性を備えた新しいアイディアを、様々な立場の人々と対話し、協働して生み出していける、そのような人材が輩出されることを切に願っています。

私はこの2年ほど、同窓会「紫陽会」の事務局に関わらせていただいておりますが、その歴史の厚みにいつも感服しています。会員の皆様の、同窓会活動に限らず、仕事や社会活動をお知らせいただき、共有することで、学生たちにとっては大きなヒントがたくさん見つかるのではないかと、そのような気がいたしました。最後になりましたが、国際人間科学部のご発展と、同窓会「紫陽会」の皆様のご健康とご活躍を、祈念しております。

国際文化学部 大学院国際文化学研究科

子どもたちに音楽を届ける

神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科3年生

神戸大アートマネジメント研究会代表 門 田 菜 奈

神戸大アートマネジメント研究会は、アートマネジメントを専攻している学生の有志で2002年に藤野ゼミ下に結成された研究会です。その主な活動として、2006年より毎年行っている「子どものためのコンサート」があります。「子どものためのコンサート」とは、子どものうちに本格的な音楽に触れる機会を提供することによって子どもたちの豊かな感性や想像力を育むこと、音楽に出会うきっかけを作ること为目标として、学生が一から企画・運営しているコンサートです。ここでは8月に行った本年度のコンサートについて、みなさんにご紹介します。

本年度のコンサート「子どものためのコンサート 第12弾 音楽のアトリエ～サクソとピアノが彩る風景～」は、現在パリ国立高等音楽院に留学しているサクソ奏者の袴田美帆さんと、ピアニストの宇治澤一光さん、そしてダンサーの坂本愛結さんをお迎えし、8月3日に神戸市垂水区にあるあじさいホールで開催しました。

今回のコンサートに向けて動き始めたのは、昨年の10月。出演者の方と交渉し、コンサートのコンセプトを練るところから始めました。今回のコンセプトは、「新しい、一歩大人な世界との出会い」です。



子どもたちに今までに触れたことのない世界に出会ってほしい、そして本格的なクラシックのコンサートを体験してほしいという思いで決定しました。

このコンセプトを基に、今回のコンサートで行った工夫を紹介します。



まずは、現代曲とコンテンポラリーダンスのコラボレーションです。旋律のない現代曲と、その場のインスピレーションから即興で動くコンテンポラリーダンスによって、その場で生まれる音楽と動きの力を子どもたちに肌で感じてもらうことを目指しました。

また、もう1つの工夫として子どもたちに感じたことを表現してもらうような仕掛けを作りました。パンフレットの中にスペースを作り、子どもたちに曲ごとに感じた感情や風景を書き出してもらうことで、受動的な体験に終わらず能動的に音楽に触れられるように意識しました。

さらに、アップテンポで踊り出したくなるような曲からしんみりした哀愁漂う曲まで多彩な曲を選び、また事前に質問を来場者の方から募集し出演者

の方にインタビューする、楽器やダンスについての知識をパネルで展示するなどの工夫をしました。



今回の来場者数は、233人。子どもへのアンケート結果としては回答人数83人中「楽しかった」「まあ楽しかった」が約90%を占め高い満足度が得られ

ました。また、ダンスのコメントには動きから様々なものを連想した感想が多数見られ、子どもたちの想像力の豊かさに驚かされました。一方で、大人向けのアンケートでは「子どもには曲が難しすぎたのではないかな」などのご指摘も多数いただき、それらに関しては来年度の改善点として検討していこうと考えています。

最後に、今回のコンサートを開催する過程でご助力いただいた、たくさんの方に感謝申し上げます。共催、助成、後援いただいた方達をはじめ、たくさんの方の協力があってこそアートマネジメントの現場は成り立っています。この輪がさらに広がっていくことを目指して、研究会はこれからも活動が続けていきます。

また来年も「子どものためのコンサート第13弾」を企画しておりますので、ぜひお越しくださると幸いです。



世代交代

神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科3年

新入生研修学生実行委員長 松本 陶矢

国際文化学部時代から開催されていた新入生研修は4月21日に実施されました。研修に関わる3世代が皆グローバル文化学科所属になった今でも、新入生研修という素晴らしい伝統を継承しています。そんな研修ですが、毎年昨年までの良いところを引き継ぎながらも新たなアイデアを加えるのが常です。今年で言えば、新入生研修のInstagram公式アカウントを作ったことです。昨年までは新入生への伝達手段が初年次セミナー※ 単位のライングループのみで必要事項の連絡しかなかったのですが、Instagramアカウントを開設することで、スタッフ紹介や研修までのカウントダウンといった新入生が見ていて研修前から楽しめるようなコンテンツが提供できたと思っています。また、当日の持ち物やプログ

ラムの流れなどのリマインドも気軽にできたため例年よりも忘れ物や遅刻が少なく、スタッフとしてもスムーズに研修を進めることができました。

当日のプログラムは昨年とは大きく変えずに実行しました。朝の部ではアイスブレイクのゲームを実施し、例年通り最後のリレーは大きな盛り上がりを見せました。昼の部では研究室訪問の報告プレゼンと、各セミナーでディスカッションをした内容をまとめたプレゼンを行いました。今年のディスカッションテーマは『外国人観光客向けの日本観光ツアーを企画しよう!』でした。夜の部ではバイキング形式で食事をとりながら先生方・新入生・スタッフが交じり合いながら談笑した後、大喜利ゲームや留学中の国文生へのテレビ通話などのレクリエーションを

楽しめました。スタッフとしても多くの新入生や先生方とお話しできたため、とても良い時間を過ごせたと感じています。

新入生研修に関わる学生が国際文化学部から国際人間科学部グローバル文化学科へ世代交代した今で

も、タテとヨコのつながりを密接にするこの研修を受け継いでいます。ご支援くださった同窓会の皆様に感謝の限りです。

※いわゆる基礎ゼミのようなもの



元町映画館にお越しく下さい

国際文化学部地域文化学科現代文化論講座 2005年卒 住田明世（旧姓：中井）

皆さんは、元町商店街4丁目にある「元町映画館」をご存じでしょうか？私がこの映画館の運営に携わって、9年が経ちました。創業は2010年8月。2020年で10周年を迎えます。

2002年の夏から1年間、私は交換留学生としてフランス・ニースにいました。映画が好きだった私は、学部の授業もそこそこに、映画館に入り浸る不良留学生でした。ある日、大学の掲示板で『となりのトトロ』の自主上映案内を見て、友人と出かけてみる

ことにしました。主催していたのは地元のシネクラブ、その名も“Cinéma Sans Frontières”。国境なき医師団、ならぬ国境なき映画館です。その名の通り、上映する作品はジャンル・国籍ともさまざま。皆で映画を観た後はディスカッションがあり、何度も通ううち、フランス語も上達していったような気がします。

卒業後、映画とは直接関係のない仕事に就き、フランス語を話す機会もなくなりました。そんな時、

学生時代の知り合いに誘われ、冒頭に述べた映画館の運営に携わることになりました。

神戸では三宮に長らくあったミニシアターが閉館しており、単館系の映画館が減っていました。シネコンで上映されるのはメジャーな邦画、ハリウッド映画が中心です。まさに“Cinéma Sans Frontières”の精神で、「ジャンル・国籍にかかわらず、おもしろい映画を観られるミニシアターをつくらう」というのが創立者を中心としたメンバーの想いでした。

1999年に入学した私は、卒業論文のテーマに当時盛り上がっていた「反グローバリゼーション運動」を選びました。その頃は、それが主流の新自由主義に対するカウンターだった訳ですが、時を経て、今では米国などが率先して保護主義的政策を打ち出しています。

日本でも現在、内向きの思想が高まっています。映画業界でも、20年ほど前に比べ外国映画の配給が減っているように感じます。「反グローバリゼーション運動」にはさまざまな側面がありましたが、私は、それは決して排外主義を良しとするものではなかったと考えています。むしろ私が惹かれたのは、共通の問題に対し、世界中の市井の人たちが連帯して抗議する姿でした。

映画館でも、一般には知られていない外国の監督・演者の作品はなかなかお客さんが入りませんが、これからも細々と上映を続けていきたいと考えています。

なお、もう一つ、元町映画館で工夫していることがあります。それは、「映画館でしか得られない体験を提供する」ということです。今は、自宅でも気軽に映画を観られる時代です。わざわざ映画館に向くというのは一見非効率に思えますが、そんな中で、館内のポスターなどで自分が知らなかった映画を知ったり、たまたま参加した上映後のトークショーなどで作品をより深く理解する、といった「偶然の出会い」を楽しんでいただけるよう心掛けています。トークショーには神戸大学の先生方にも頻繁にご協力いただいています。

皆さんも、お誘いあわせのうえ、ぜひ一度お越しいただければ幸いです。

(一般社団法人元町映画館 理事)



<今後の上映予定>

2019/11/9 ~ 『ホームステイ ボクと僕の100日間』(タイ)
2019/11/16 ~ 『サウナのあるところ』(フィンランド)

(近日公開)

『祈り』三部作(ジョージア)

『ユリー・ノルシュテイン《外套》をつくる』(日本)

『シスターフード』(日本)

『ペトラは静かに対峙する』(スペイン, フランス, デンマーク)



ホームカミングデイ学部企画

2018年度ホームカミングデイ国際文化学部企画は、10月27日(土)の午後、卒業生シンポジウムと学生報告を主なプログラムとして行われました。卒業生シンポジウムでは、「グローバルに生きる～国際文化学部の学びを地域に～」をテーマとし、国際協力機構（JICA）の鈴木崇浩氏(2005年卒)、株式会社「あわわ」の四宮彩氏(2003年卒)、自営業兼農家の山里佳世氏(2009年卒)の三氏に講演をしていただきました。主にアフリカをフィールドとする鈴木氏をグローバルな仕事に従事する卒業生として、徳島県のローカルメディア「あわわ」勤務の四宮氏と、兵庫県の片田舎でバーを営みながら田んぼを耕している山里氏をローカルな仕事を営む卒業生として、国際文化学部での学問が現在の活動と何らかの繋がりがあるのか否か、また、自分たちの経験をもとに現在のグローバル文化学科で学ぶ学生さんたちに伝えたいことなどを語ってもらいました。



卒業・修了記念謝恩会



2018年度国際文化学部・研究科、卒業・修了記念謝恩会は、2019年3月26日(火)に神戸ポートピアホテル和楽の間で開催されました。多くの国際文化学部卒業生、研究科修了生が出席し、当日出席された櫻井徹先生を始めとする21名の先生方に、大学での授業や研究活動の指導に対して感謝の意を表しました。この謝恩会では、各講座から選ばれた優秀卒業論文賞の表彰や、様々な認定プログラムの修了証書の授与も行われ、卒業生、修了生は、学生生活最後の日を友人と楽しみ、社会への門出を確認する良い時間となりました。

《学生数》

神戸大学概覧2019より 令和元年5月1日現在

学 部・大学院	入学定員	志願者数	入学者数	総定員	在籍者数
国際文化学部				140	216 (154)
国際文化学研究科 博士課程前期課程	47	98	51	94	118 (74)
国際文化学研究科 博士課程後期課程	15	20	14	45	68 (44)

備考：在籍者数の（ ）は女子を内数で示す

《就職・進学状況》平成30年度学部卒業生・大学院博士課程前期課程修了者

学部・大学院	卒業者数 修了者数	進学者数	就職者数	就職者数内訳			その他
				企業等	官公庁	教員	
国際文化学部	151	12	128	116	11	1	11
国際文化学研究科	47	9	19	17	0	2	19

発達科学部 大学院人間発達環境学研究科

垣根を越えて

発達科学部人間環境学科自然環境論コース4回生 横山 優花

鶴甲第2キャンパスのG棟には主に自然環境論コースの研究室や実験室がある。理系のコースにしては珍しく、ここでは物理・化学・生物・地学のすべての分野について学ぶことができる。私はここで日々自然科学について勉強している。

今ではあまり信じてもらえないが、高校時代、私は文系のコースに所属していた。（数学があまり得意ではなかったことが理由の一つである。）だが、履修していた地学の授業をきっかけに自然科学に興味を持ち始め、大学でも勉強したいと思った結果、今に至る。

大学では勉強だけでなく、調査や学会への参加やオーストラリアへの留学などたくさんの経験もさせてもらった。でもなにより私がこのコースで好きなところは、分野を越えた新しい研究に出会えるところである。ここでは各研究室の垣根が低く、比較的容易に違う分野の研究室と共同で研究することが可能であるため、興味深い研究の話をたくさん聞くことができる。ちなみに私は、千葉石という最近千葉県で新しく見つかった鉱物の物理化学的性質を調べ

るという、物理化学と地学を組み合わせたような研究を行うつもりである。

また、このコースのいいところはBBQやスポーツ大会など様々なイベントが開催されるところだ。研究室に所属している人だけでなく、全学年を対象としており、自分とは違う分野に興味のある人と話ができるいい機会だと私は思っている。先日もBBQ大会が開催され、自然環境論コースだけでなく他コースの研究室の参加もあったほか、各研究室がヨーヨー釣りなどの催しをしていたのでまるで夏祭りのような賑わいをみせていた。

このような楽しい面もある一方で、（特に文系出身の私にとって）勉強面において大変なことも多々ある。しかし、研究室で頻繁に行われる議論などで日々たくさんの刺激を受けるので、もっと勉強して私も議論に参加したいという気持ちにさせられる。私もいち早くG棟の住民（滞在時間が長い人が多いので私は秘かにこう呼んでいる）の一人となれるようにこれからも努力していきたい。



第13回ホームカミングデイ学部企画

平成30（2018）年10月27日（土）



発達科学部では、例年、学内探検ツアー、キャンパスツアーと銘打って構内を案内していただきます。新しくできたラーニングコモンズなど、学生や教職員が自由に利用できる開かれた学びの場に参加者は感心・関心しきりでした。学生の作品展示やダンスパフォーマンスも見ていただき、表現学科学生の個性的な活動の様子を知ることができました。全体会では、「知りたい、伝えたい、繋たい、発達科学マインド」と、教育学部、発達科学部、国際人間科学部の方々をパネリストとして懇談会が行われました。パネリスト、参加者それぞれから活発な意見が交わされました。その後、「懐かし



の生協食堂で、先輩、同級生、後輩、そして現役大学生たちと語ろう」懇親会が開かれました。初対面でも、世代を越えてすぐに打ち解け、和やかな雰囲気の間になりました。年に1度の機会ですから、幅広い年代層や異なる学部出身の参加者、特に若手参加者が年々増えていけば、さらに実りある会となるでしょう。会員の皆様の積極的参加をお待ちしています。



平成30年度卒業修了祝賀会

平成31(2019)年3月26日(火)



ポートアイランドのワールド記念ホールで平成30年度学位記授与式が行われたこの日、午後1時30分からは、鶴甲第二キャンパス、体育館で卒業修了祝賀会が開催されました。宮嶋会長、岡田学部長からの言葉一つ一つに、学生生活のこと、社会人としてのこれからなど、それぞれの思いがあったようです。大勢の卒業修了生、先生方が集まり、とても華やかな会場になりました。宴が進むにつれ、舞台上では学科やゼミごとに入れ代わり立ち代わり記念撮影をする姿に、ともに学び、研究を進め、絆を深めてきた仲間ならではの雰囲気が感じられました。まさに前途洋々、存分に力を発揮することでしょう。



《学生数》

神戸大学概覧2019より 令和元年5月1日現在

学 部・大学院	入学定員	志願者数	入学者数	総定員	在籍者数
発達科学部				290	355 (194)
人間発達環境学研究科 博士課程前期課程	91	148	98	178	202 (109)
人間発達環境学研究科 博士課程後期課程	17	23	16	51	78 (42)

備考：在籍者数の（ ）は女子を内数で示す

《就職・進学状況》平成30年度学部卒業生・大学院博士課程前期課程修了者

学 部・大学院	卒業生数 修了者数	進学者数	就職者数	就職者数内訳			その他
				企業等	官公庁	教員	
発達科学部	282	63	196	148	26	22	23
人間発達環境学研究科	79	4	54	34	8	12	21

「紫陽会賞」授賞式

「紫陽会賞」は、学術・芸術・文化・スポーツ・社会貢献などの分野で、すぐれた功績をあげた会員及び学部・大学院に在籍する準会員を、同窓会として顕彰するという趣旨で2011（平成23）年に始めました。ホームカミングデーの学部企画の一つとして授賞式を行い、受賞される方々には、クリスタルガラスのトロフィーと金一封をお贈りします。

第8回授賞式

《会員の部》

★黒田 権大氏〔1953（昭和28）年卒〕



1945（昭和20）年7月、米軍機による無差別爆撃で火の海と化した姫路で祖父母を亡くし、自らも40cmの差で焼夷弾の直撃を免れた16歳当時の体験が、300回が目前となった「姫路空襲の語り部」活動の原点とのこと。

74回目の終戦の日を迎えた今年、我々が体験した太平洋戦争での犠牲の多くが非戦闘員だったことを、次世代を担う若者に伝え、改めて不戦の思いを新たにすることは戦中に生を受けた者の努めであると思います。被災体験を通し、平和の尊さを説く氏の熱情を忘れてはならない、という思いで紫陽会賞に推挙しました。



《準会員の部》

★堀庭 裕平氏 発達科学部4年（現在大学院1年）



年少時から空手に親しみ、全国優勝を幾度も果たすなど優秀な成績を残してこられました。2017年度アジア大会U21大会で優勝、また、昨年7月、神戸市立中央体育館で開催された世界大学空手道選手権大会最終日は形、組手各種目の決勝が行われ、男子形で堀庭裕平氏が見事優勝されました。現在、空手形で東京オリンピック強化選手に指定されています。

神戸大学出身者のオリンピック選手実現の期待をこめて紫陽会賞に推挙しました。

第9回受賞者決定

《会員の部》

★坂下 功一氏〔1964（昭和39）年卒〕

1983（昭和58）年に明石第九合唱団を結成以来、2018（平成30）年まで、指導者として市民合唱団の運営に努め、明石市に市民の合唱文化が着実に根付いてきたのは氏の尽力の賜物である。

練習拠点であり、演奏会会場でもあった市民会館が阪神淡路大震災で被災し、合唱団存続の危機を迎えた時、「こんな時だからこそ第九を歌おう」という氏の呼びかけが、合唱を愛する市民の心を揺さぶり、明石の街に合唱文化をしっかりと根付かせた。

「合唱とは何か」を追究し続け、「明石第九合唱団」として結実させた氏の功績は、紫陽会賞授賞にふさわしいものである。

《準会員の部》 2019（令和元）年度は該当者なし

第13回 ホームカミングデイ全体企画報告 2018（平成30）年10月27日

記念式典は、出光佐三記念六甲台講堂（登録有形文化財）で行われた。武田学長挨拶に続いて、気象庁長官 橋田俊彦氏（理学部昭和55年卒）が、「私の神戸はじまり物語 ～変動する地球、人と社会と～」と題しての講演があった。

合わせて、社会科学系図書館（登録有形文化財）見学、山口誓子記念館見学、神戸大学史特別展「明治期の神戸と神戸大学―「明治150年」記念」も終日実施された。



第14回 ホームカミングデイお知らせ 2019（令和元）年10月26日（土）

ホームカミングデイは、2006（平成18）年に始まり、今年で14回目となりました。

今年の特定年（昭和34、44、54、H元、11、21年卒業等）の方々にはご案内が届いているかと思います。もちろん特定年以外の皆様も大歓迎です。神戸大学ホームページにも詳しく掲載されていますので検索してみてください。

記念式典は、10：30から出光佐三記念講堂で行われます。

今回の講演は、警察庁科学警察研究所長 福永龍繁氏（医学部昭和56年卒）「日本の死因究明システム～神戸と監察医制度」。学長、同窓会代表挨拶に続いて行われます。

国際文化学部
発達科学部
最後の年

学部企画のお知らせ

全体企画として記念式典は午前中に行われますが、社会科学系図書館見学（10:00～17:00）、特別展「新制「神戸大学」の誕生—新制大学発足70周年記念—」（百年記念館9:30～17:00）、山口誓子記念館見学（9:30～14:00）、ホームカミングデイ市（神戸大学オリジナルグッズ販売10:00～14:00）、災害ボランティア写真展も開催されています。

【国際文化学部】 受付 13:00～13:30 鶴甲第一キャンパス E棟4階大会議室

★国際文化学部長挨拶

★卒業生シンポジウム 13:40～15:10 E棟4階大会議室
「活躍する卒業生」現在の活動と大学時代の生活、就職活動などについて

★現役生による活動紹介 15:30～16:00 E棟4階大会議室
東北震災ボランティアや新入生研修などの同窓会支援事業について

★懇親会 参加費3,000円 17:00～19:00 A棟生協食堂ホール
※参加費は、国際文化学研究科・国際文化学部・国際人間科学部の在学生からは徴収しません。

《同窓会企画》 ☆ゲストトーク 16:00～16:30 E棟4階大会議室
☆翔鶴会総会 16:30～16:50 同上



国際文化学部同窓会「翔鶴会」は、2017年4月1日より国際人間科学部同窓会「紫陽会」となりました。「翔鶴会」としての活動は、2016年入学生が卒業する2019年度まで継続します。

【発達科学部】 受付 13:00～14:00 鶴甲第二キャンパス A棟正面玄関

◆学内探検ツアー 14:00～14:30

◆鶴甲へお帰りなさい！ 14:45～15:00

発達科学部長、紫陽会会長 挨拶 A棟大会議室

◆紫陽会賞 授賞式 15:00～15:15

鶴甲第二キャンパス A棟大会議室

◆ありがとう 発達科学部！ 15:20～16:30

鶴甲第二キャンパス A棟大会議室

私たちを育ててくれたキャンパスは今

一在学生と繋がる同窓会を開こう

◆懐かしの生協食堂で、先輩、同級生、後輩、そして現役学生たちと語ろう！（懇親会）

16:40～18:00 鶴甲第二キャンパス 生協食堂 参加費3,000円

※ご家族の同伴歓迎。1歳以上のキッズスペースも用意（要予約）。

会場でのお子様との同席も可能。詳細は発達科学部ホームページをご覧ください。



姫路支部の活動

鍛 示 芳 子〔1983（昭和58）年卒〕

平成30年度姫路支部総会

平成31年2月3日(日) 10時より姫路総社会館において姫路支部総会を開催しました。

神戸大学国際人間科学部長岡田章宏先生、宮嶋昭周紫陽会会長、高岡保宏白鷺教育会会長にご臨席いただき、総会37名、懇親会33名で会を開くことができました。総会では、米田支部長から挨拶と事業報告に続き、新役員が発表され了承されました。

議事終了後、「姫路の鎖」という演題で衣川製鎖工業株式会社 社長 衣川良介氏のご講演を拝聴いたしました。グローバル化の時代と言われていますが、姫路支部として、広い視野と地道な活動を大切にしたいと考え、地元姫路の発展を願い、尽力されている衣川氏のお話を伺いました。姫路の鎖づくり、鎖はどんなものか、いつ始まったのかなど、歴史の話を聞かせていただきました。昭和61年から毎月1枚ずつ「夢通信」を発行し、また、ホームページ「むらの鍛冶屋」を出し、情報発信を続けられています。2009年には「鉄のふしぎ博物館」を開館し、砂鉄や鉄鉱物など200点にも及ぶ展示されています。地元の小学生も博物館を訪れ、奥深い鉄の世界を学習していました。4000年以上も前に落下したと推測される隕鉄も実際に持たせ、「見るだけで

なく自由に触れる中でいろいろ感じてほしい」と話されたことは印象に残りました。衣川氏が子どものときに「硬い鉄がどうして簡単に曲がるの？なぜ、ひつつくの？」と疑問に思ったことが、今も常に「なぜ？」「なんで？」と考えるようになったと話されたのは素敵なことだと思いました。

総会に続いて開催した懇親会の席では同窓生の交流を深めることができました。また、当日は欠席でしたが約100名の方々から近況報告をいただき、多くの方々が多方面で元気にご活躍されていることもわかりました。

来年度の再会を誓い、紫陽会姫路支部総会・懇親会を閉会しました。



P3では約50年前の写真を見ていただきました。現在の様子を、約50年前とほぼ同じ位置から撮影しました。鶴甲第一キャンパスの教室棟が高く、大きくなり、発達科学部・鶴甲第二キャンパスが、その屋上に乗っています。

かつて通学時に使った門は現在閉鎖されており、左上写真の電柱のところに見える歩道橋から入ります。造成された当時の土の斜面には、今は樹木が繁り地面は全く見えなくなりました。

教育学部五十年史を購入希望の方は紫陽会事務局にお問い合わせください。

教育学部1期生(米寿)同期会

幹事 鈴木 正二郎〔1953(昭和28)年卒〕

平成30年10月23日(火)、舞子ピラ神戸で教育学部1期生の同期会を開いた。

今回は宮嶋昭周紫陽会会長をお招きして、神戸大学の現況と最近の紫陽会の活動状況をお聞きすることを一つの目的にした。

1期生が入学したのは昭和24(1949)年で、その昭和24年というのは第二次世界大戦後教育大改革が行われ、全国に新制大学がスタートした年である。1期生の中には陸軍士官学校生や陸・海軍幹部候補生だった人も、新たに大学を受験して入学して来ていた。したがって大部分は米寿(88歳)だが、中には90歳を超えている者も何人かいる。

出席者は10名だった。1期生は150名卒業したが、案内状を発送出来たのは51名。そのほとんどが近況を書いて返信を寄せてくれた。これは誇ってよいことだと思う。

欠席者の返信では、体調不良や足・腰の痛みで欠席というのが多かったが、一方地域の役職を引き受けており、会が重なるため出席出来ないという者も何名かいた。元気で活躍していて頼もしいことだ。中でも山口県萩市在住の松田輝夫氏(93歳)からは、「遠方のため出席できないが、今なお吉田松陰顕彰事業の核となって活動が続けている」という頼もしい便りが届いた。

出席者は、

高橋長藏(岡山県高梁市)

西村行夫(養父市)

後藤博彌(たつの市)

畑尾芳彦(篠山市)

山本英夫(小野市)

黒田権大(姫路市)

伏野貞子・森本茂(西宮市)

西川昭史・鈴木正二郎(神戸市)

と、遠方からの参加者が多かった。遠く離れていても神戸大学同期への想いが強いからこそ遠方も辞さず参加してくれたのだと感じた。世

話をした者としてありがたいことだった。

会は黒田権大幹事の司会で始まった。まず西村行夫代表幹事から、「元気で集まったことを喜び合いたい」との挨拶があり、次いで宮嶋会長から、教育学部―発達科学部―国際人間科学部と変遷してきた過程と、同窓会紫陽会が、神戸大学各同窓会の中でも重要な役割を果たしている等、紫陽会の活動状況について説明があった。

司会が乾杯の発声者として、最も遠方から参加した高橋長藏氏を指名し、全員が拍手で賛意を表した。高橋氏は、「神戸大・教育・1期のこれまでの活躍を誇ろうではないか」と述べ、高らかに「乾杯」を唱えた。次いで会食・懇談に移り、一人一人スピーチを行った。学生時代の思い出・病気や怪我を乗り越えた話・現在も地域で活躍している話等々それぞれ豊富な体験を語った。「これが最後の同期会になるだろうか」「いや、また会おう」という話も飛び出した。

2時間はあっという間に過ぎ、西村代表幹事が、「お互いこの元気で、また会おうではないか」と、意気軒昂な挨拶で締めた。



伝えたいこと

川 崎 チヨ子〔兵庫師範学校女子部本科2回・専攻科20回生〕

はじめに

私は、専攻科を終えて昭和21（1946）年、太平洋戦争終戦の翌年に小学校の教師として教壇に立ちました。爾来、神戸市立小・中学校に前後合わせて10年余（途中退職して、結婚・二児出産・家業の手伝い等約7年）、神戸大学附属幼稚園23年、神女短大・四大に10年余、これと重なって、幼児と母親のための〈明石マザーズ・スクール〉を開設して24余年、87歳から休養致しました。

この間我が国は民主主義国家へ。破壊された国土も食糧難や物資不足等々からも脱却して立ち直り、今日の発展を遂げました。教育界でも、「でも・しか先生」や「教育爆発時代」等々と言われたりしながら今日を迎えました。こんなことをこもごも振り返り、私なりの提言を致します。

その1. 適宜性を大切にする。

— その時・その場・一人一人

発達課題に即した教育を行うのは当然であり、教科書によって、一般的には示されている。しかし、具体的には教師によって、その時・その場の状況判断が異なり、対処の仕方も大きく変わる。物事を見る目・相手を知ろうとする心を十分に働かせて的確に理解し、一人一人に即した対応が出来るようになりたいものである。幼児教育では、特に大切に考えたいことである。

その2. 教育信念を確立させ、分かり易く目標として示す。

例示 — 神大附属幼稚園の教育目標から—

「人間らしく、よりよく生きるための行動の基盤を幼児自らに形成させる」

この目標を幼児により分かり易く理解できるように示した。

—自分（個人）で考えて良いと思う行動をする—
（他者—集団から見ても良いと思える行動であること）

*ここに言う「良い」については、信念とする『愛と創造』について記さなければならないが、残念ながら紙面の都合で略する。

その3. 学校は誰のもの

学校には設置者が有り、生徒が居り、教師が居る。しかし、これらは現在の者のみではない。長い間の卒業生や保護者やその地域がある。この積み重ねが現在の学校である。大きく広く把握していきたい。

教師は、一般的に地味で労の多いものだと言われますが、私の思い出は温かく豊かで、90歳半ばを生きる現在も、自分なりに生きる支えとなっており、感謝しています。



1943（昭和18）年3月、「師範学校令」改正。

兵庫県師範学校と兵庫県明石女子師範学校が併合されて官立兵庫師範学校がおかれた。兵庫県師範学校は男子部として赤塚山（現在の神戸市東灘区）に、明石女子師範学校は女子部として明石市山下町に置かれた。

（神戸大学教育学部五十年史より）



ペチュニア花言葉：あなたと一緒に心がやわらぐ

地域小学校との関わり

東 田 る い〔兵庫師範学校女子部本科4回生〕

はじめに

私は母校卒業（昭和23（1948）年）以来、小学校教師を35年間続けました。特に地元の三田小学校には前後通して14年間勤務、自宅が校門前近くにあります。退職後も、小学校地域運営協議会委員を平成25年から現在まで（年10回）継続。児童との触れ合いも多く、入学式・卒業式・運動会・音楽会・図工展・七曜日まつりへも参加。毎終了式後の市内諸団体との教育協議会等々にも参加し、下校時の児童見守り活動は現在まで18年続けています。その他も随時案内が有るごとに授業参観に参加しています。

その1. 小学校の近況から

- ・教育理念 子供の夢と未来が輝くまちさんだ
- ・めざす子供像 人が好き・このまちが好き・夢に向かって歩むさんだっ子
- ・取り組みの現状 〈あいさつうんどう〉 校門に幟・登下校時に班長が旗を持って先頭を歩く。
* 買い物の帰りに出会うと“気を付けてくださいよ”
* 登下校の立ち番の時等“何時間立っているの”“ごくろうさん” 等々の言葉を交わすこともある。

その2. 中学校々区での教育問題協議（小学校3校を含む）から

- ・小中の教師相互の理解、親への情報交流にも良い。

その3. 教職員組織について

- ・男性教師が少なく女性教師が多い。また中堅が少なく若い教師は多い。
- ・運動会等の行事に2列への並ばせ方の、決め方が分からないらしい。
- ・専科の教師が多いのは、担任教師の教材研究等の余裕になると思う。
- ・学校支援ボランティア ― 図工・書写・家庭科等がある。

その4. 授業参観その他から

- ・算数 ― 1年生算数 たし算（+）（=）を記号を使って式に書く
記号、しき、の意味の説明が無く・・・「しき」と書く子
（+ たす ふえる）等の説明があれば良いのと思う。
- ・話す ― 感想を述べる 集団で考える 代表で発表が出来る。
音楽会の選曲の仕方を説明し発表する。（やんちゃな子が自ら買って出る）
- ・校長からは、たびたびの授業参観を望まれる
- ・放課後学習会―15時～45分間 学習支援ボランティアの指導による。

その5. 保護者について

- ・会長は2年交代で、大都会への勤め人が多く役員選びは難渋の様である。
- ・しつけについては、学校でとの希望が多い様であるが、先生側からは「家で幼少のころから」と望まれるらしい。相互理解を図りたい。

1949（昭和24）年5月、「国立学校設置法」の施行により住吉村（現在の東灘区）赤塚山に神戸大学教育学部が設置された。（神戸大学教育学部五十年史より）



1950年代の教育学部

せんきゅう

船級協会の話

金 田 守〔1966（昭和41）年 技術科卒〕



会員諸氏には、船舶の運航に密接な関係がある船級協会というものに馴染みのない方が多いと思われるので、ここで簡単に紹介したいと思います。

自動車に関しては型式承認や登録、車検に係る業務等があると思われますが、船舶に対してこれらに類似する業務を行う組織団体があり、これを船級協会と称しています。

私が勤務していたロイド船級協会（Lloyd's Register of Shipping,略してLR, 英国）は、世界で最も歴史のある船級協会です、民間の団体です。

船級協会の業務は、まず船舶に船級（航行できる資格）を付けることです。そして、その船級を船の生涯にわたって維持するための業務があります。その他にLRは船舶名簿の発行、船級規則の発行などを行っております。

世界にはLRと同様の船級協会としてBV（仏）、AB（米）、NK（日）、RI（伊）、GL（独）等があり、また、船級協会とは別に政府間の海事協議機関として、国際連合に属する機関としての、国際海事機構IMOがあります。

それでは、船級協会の最も重要な仕事である船級を与え、これを維持する業務の概要を紹介します。

最初に、造船所又は船主から、建造する船舶の入級のための申請書を受け付けます。

次いで船舶の建造計画図の提出を受け、これを審査し承認します。計画図とは、船の全体図、船体各部の詳細図、機械及び電気の詳細図、その他、船に関連する図書のことです。この図書は、船毎または姉妹船毎に提出されます。

計画図の承認後、船舶の建造の始めから完成までの検査に立ち会います。まず製鋼所、機械製作所での検査に立ち会い、造船所では船の起工から完成までのあらゆる段階に立ち会います。完成時には当該の船が、船級の要件をみたしていることを示す船級マークを付け、船級証書を発行します。

就航後に次の検査を行います。

定期検査：5年周期で船の全ての部分を検査します。

中間検査：定期検査後、2年又は3年毎に主に船体を検査します。

年次検査：年に一度、主に安全設備の検査をします。

以上、簡単な紹介ですが、実際に数万トン級以上の貨物船を一隻建造するには、起工から完成までおよそ1年近くかかるようで、建造計画図の作成を含めると2年近くを見込んでいたようでした。

次に船舶名簿について紹介します。名簿に掲載される船は、原則として100トンを超える商船で、現在約10万隻が掲載されています。船一隻についての掲載項目を羅列しますと次のようなものです。

IDナンバー、船名、船主名、船籍国、トン数、船級マーク、主要寸法、造船所名、就航年、船の種類、機関の種類と出力、船速、等です。

次に船級の規則についてですが、船舶の船殻構造、船体強度、機関、電気、各種の設備等について、船級として要求する規則を定めているものです。

以上、船級協会に関する概要の極一部を紹介しましたが、読者諸氏が少しでも興味をもって頂けたなら幸いです。

■ 人物クロッキー会へのお誘い

神戸大学凌美会OBを中心としてクロッキー会を月2回続けています。もう何年になるでしょうか。土曜日の午後です。

モデルさんはプロですので、こちら時間も忘れ、歳を忘れ、夢中でその時を過ごします。美術室を借りていますので 三脚、画板、モデル台など全て揃っています。今は毎回平均15名前後 が集まり進めています。

それぞれのものの見方が違ってとても面白いですよ。プロ・アマを問いません。初めての方でも描いてみたい方、ご一緒にしませんか。神大OBの方、また、その関係の方ならどなたでも大歓迎です

また、年1回、三宮のミウラギャラリーでOB展を開催していますが、今年で26年目です。

ぜひ観に来てください。会員60名前後が出品しています

【凌美会OB展】

2019年10月1～6日 ギャラリーミウラ 1階

10時30分～17時（最終日は16時）

【クロッキー会】

場所：勤労会館3階美術室

日時：毎月第2、第4土曜 14～16時

費用：ヌード 1500円、着衣1000円



■ 紫陽会会員の皆様へお願い ■

★住所、メールアドレス等変更の際は紫陽会事務局及び人間発達環境学研究科キャリアサポートセンター（注）にもお知らせください。

（注）平成29年4月1日付けで、当センターの名称は、発達科学部キャリアサポートセンターから人間発達環境学研究科キャリアサポートセンターに変更されました。

★住所不明で、この会誌が届けられない方もおられます。もしそのような方をご存じでしたらお知らせください。

★発達科学部、大学院人間発達環境学研究科生の卒業後の進路・職業選択の支援にぜひご協力ください。

特に、神戸市・兵庫県外では先輩方と接する機会が少なくなります。

企業等の概要や就職後の暮らし、各地の様子などをお話いただいたり、資料をお送りいただいたりするだけでも学生の選択の幅が大きく広がります。

★卒業生を対象とした私学教員などの求人情報が不定期的にキャリアサポートセンターに入りますので、必要であれば、紫陽会事務局やキャリアサポートセンターにご連絡ください。

連絡先 紫陽会事務局

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-2-19

TEL 078-371-6322 FAX 078-371-6306

E-mail shiyohkai@kobe-u.com

神戸大学人間発達環境学研究科キャリアサポートセンター（鶴甲第2キャンパス）

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11

TEL&FAX 078-803-7980

E-mail contact_csc@h.kobe-u.ac.jp



BKB PROJECT Books for KOBE Univ.Bokin 神戸大学古本募金

「神戸大学古本募金BKBプロジェクト」は、神戸大学と株式会社バリューブックスとの共同プロジェクトです。神戸大学同窓会の皆様から送っていただいた書籍等（CD、DVD等を含む）で神戸大学を支援できる取り組みです。このプロジェクトで集まった寄附金は、神戸大学の学生への支援に活用されます。

★ISBNの入った書籍のみ取り扱います。ISBNは国際図書番号で、書籍の裏表紙等についています。

ビジネス書、専門書、文庫本、小説等以外にも、DVD、CD、ゲームソフトも受け付けますが、ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ雑誌、一般雑誌は取扱いません。

★申込みは、バリューブックス（0120-826-292）に電話で、「神戸大学古本募金BKBプロジェクトへの申し込み」とお伝えください。5冊（5点）以上は送料無料、冊数制限はありません。「神戸大学古本募金BKBプロジェクト」で検索して、《WEBで申し込む》こともできます。

★値段がつかなかった書籍等は、国内の福祉施設、図書館、海外の教育研究機関に寄贈されます。

KU-Net <http://www.kobe-u.ac.jp/alumni/KU-Net/>

神戸大学コミュニティネットワーク

Kobe University Community Network

KU-Net

検索

卒業生・在学生と大学、及び、卒業生・在学生同士の緊密な連携を図るため、神戸大学は『KU-Net』を開設しています。

『KU-Net』では、次のようなことができます。

- ・利用登録された卒業生・在学生を検索でき、連絡を取り合う
- ・大学からの各種お知らせ等を閲覧する
- ・メールマガジンが定期的に届く など、詳しくはホームページをご覧ください。

『KU-Net』の利用には登録が必要です。

上記のアドレスにアクセス、『KU-Net』で検索、神戸大学ホームページからアクセス

「紫陽会」に投稿のお誘い

教育学部の頃は、教員や教育の道に進む卒業生が多数いました。しかし、1992（平成4）年、教育学部を改組して発達科学部が誕生すると、卒業後の進路も多岐にわたるようになります。お知らせしている今春卒業生の就職・進学状況では、就職者196名のうち企業・官公庁等174名、教員22名です。教員22名は、就職者全体の11.2%です。

様々な分野でご活躍の会員の皆様、仕事のこと、ボランティア等活動のこと、趣味のこと、など自由なテーマで紫陽会事務局宛てに原稿をお寄せください。

遠く1874（明治7）年の兵庫県師範伝習所設置に始まる国際人間科学部の歴史の中で、1本の苗木が今や大きく枝を広げる大木になった姿を、原稿を通して感じたいと思っています。

令和元年度 評議員会報告

令和元年8月3日（土）午前10時より舞子ビラ神戸にて紫陽会評議員会が開催された。

会の初めに、昨年度評議員会以降にご逝去された会員に哀悼の意を表し、黙祷を捧げた。

この日の出席者は40名、委任状提出は47名であった。



平成30年度事業報告、平成30年度会計決算報告（運用資産・基本財産）財産目録報告及び監査報告、令和元年度人事案、令和元年度事業計画案、令和元年度運用財産及び基本財産予算案について審議され、いずれも原案通り承認された。

今年度は、紫陽会でも大学でも人事面で大きく変化があった。

紫陽会では、8年間会長として紫陽会活動を支え、推進してこられた宮嶋昭周氏（S34卒）が退任し、新会長に青木莊一郎氏（S51卒）が就任した。人事案提案の後、宮嶋氏の長年にわたる紫陽会への貢献に対し、青木新会長から感謝の言葉が述べられた。2氏の卒年をご覧いただければ大きく若返ったことがお分かりいただけると思う。

また、国際文化学部翔鶴会との統合により、平成29年度には



近藤翔鶴会会長が本部役員（副会長）に就任、昨年度は久下副会長、今年度は中津副会長就任と、着実に新生紫陽会の基盤が固まりつつある。さらに、評議員には平成卒業・修了を表す



「H」の表記が増え、紫陽会運営全般に徐々に若返りが進んでいることにもお気付きかと思う。

大学でも学部再編統合の進行による異動があった。初代国際人間科学部長であった岡田章宏先生が神戸大学理事・副学長に、また、紫陽会としても新しく設けられた名誉相談役に就任された。国際文化学部長の櫻井徹先生が国際人間科学部長に、西谷拓哉先生が新・国際文化学部長に、発達科学部長の岡田修一先生が国際人間科学部副学部長に、青木茂樹先生が新・発達科学部長になられた。

宮嶋前会長はじめ先生方の思いや将来への展望などについては本誌巻頭ページをお読みいただきたい。

次いで、神戸大学国際人間科学部の現状、紫陽会賞授賞候補者、学友会、神戸大学広報誌「風」、第14回ホームカミングデイ、会誌「紫陽会」、神戸大学クラブ（KUC）、紫陽会寄贈図書などについての報告・依頼があった。

評議員会終了後の研修会では、櫻井徹国際人間科学部長から、国際人間科学部の現状や課題についてお話いただいた。

その後、懇親会が行われ、ご挨拶や近況報告などを聞いたり、久々の出会いに積もる話をしたりと、紫陽会の絆を深めることができた。

紫陽会事務局からのお知らせ

今年度6月から事務局開局日が変わりました。

月・水・金 9:00 ～ 16:00（土・日・祝祭日はこれまで同様閉局です。）

これまで、月・水・木・金と週4日の開局でしたが、週3日の開局となりました。事務の効率化を図り、できる限りこの間に事務等が完了するように努めます。

8月、年末・年始には、別途閉局期間を設けています。

メール、FAXの送信は、従来通り開局・閉局にかかわらず可能です。

■ 平成30年度 事業報告 ■

平成30年

4月2日(月)	新年度組織・諸会議準備
4日(水)	入学式(ワールド記念ホール 青木)
5日(木)	新入生ガイダンス(宮嶋)
13日(金)	教育実習前実習 講義 人権・同和教育(岡田)・特別活動と学級経営(松田)
16日(月)	教員採用試験対策セミナー(志願書作成相談 24日 佐谷)
19日(木)	教育実習前実習 講義 道徳の授業(牧坂)・子どもと生活指導(栗木)
20日(金)	教育実習前実習 講義 小学校の学習指導(井口)・家庭との連携(青木)
20日(金)	KUC幹事会・会計監査(佐谷)
21日(土)	第1回事務局会議・会誌「紫陽会」39号編集会議 甲陽会館応接室
27日(金)	HCD実行委員会(米田)
5月9日(水)	平成29年度会計監査(松田・柳原)
18日(金)	兵庫教育会総会(岩戸)
30日(水)	教育学部年次代表評議員改選
6月2日(土)	第2回事務局会 幹事会について打合せ
4日(月)	教員採用試験対策セミナー(1次試験面接等 4, 8, 12, 21日—佐谷)
5日(火)	学友会常任幹事会(青木)
14日(木)	KUC運営委員会(佐谷・笹)
19日(火)	学友会幹事会(宮嶋・青木・久下)
23日(土)	紫陽会幹事会 紫陽会賞の推薦・選考
7月2日(月)	兵庫教育会甲陽会館運営委員会
6日(金)	教員採用試験対策セミナー(個人面接等 13日—佐谷)
13日(金)	評議員会案内状・資料発送 完了
8月4日(土)	評議員会・研修会・懇親会(舞子ヴィラ)
10日(金)	教員採用試験対策セミナー(二次面接等 16日—佐谷)
13日(月)	夏季休館日(～16日)
30日(木)	KUCジャズコンサート 滝川雅弘氏(クラリネット)とカルテット 楠公会館
9月15日(土)	武田 廣 学長を囲む懇談会
10月4日(木)	KUC運営委員会(佐谷)
15日(月)	会誌「紫陽会」39号発行・発送・大学訪問(宮嶋・佐谷)
20日(土)	第1回卒業生同窓会 舞子ヴィラ(宮嶋)
27日(土)	第13回ホームカミングデー・紫陽会賞贈呈式
11月10日(土)	神戸大学六甲祭(～11日)
15日(木)	KUC講演と懇談会 高士 薫 氏 神戸新聞社長「県政150年と神戸新聞120年」
27日(火)	紫陽会神戸支部総会(宮嶋・福井)
28日(水)	学友会常任幹事会(青木)
29日(木)	HCDプロジェクト委員会(米田)
12月3日(月)	新会員名簿の発送
21日(金)	事務局会・学部支援基金委員会
26日(水)	冬期休館日(～1月6日)

平成31年

1月7日(月)	事務局開き
9日(水)	大学訪問 新年度事務打合せ(宮嶋・松永)
18日(金)	学位授与式・卒業・修了祝賀会打合せ
24日(木)	KUC新春講演会 武田 廣 学長 楠公会館(宮嶋・米田・岩戸・浦嶋)
2月3日(日)	紫陽会姫路支部総会(宮嶋)
6日(水)	学友会常任委員会(青木)
11日(月)	紫陽会大阪支部総会(宮嶋)
23日(土)	第4回事務局会
3月14日(木)	KUC運営委員会(佐谷・青木・笹)
16日(土)	前期新入生オリエンテーション・(六甲台講堂・午前、午後—青木・宮嶋・福井・久下)
18日(月)	卒業・修了祝賀会打合せ
25日(月)	学友会 常任幹事会・幹事会(青木・宮嶋・久下)
26日(火)	学位記授与式(宮嶋)・祝賀会 鶴甲第2キャンパス 体育館
30日(土)	後期新入生オリエンテーション・同窓会入会説明(六甲台講堂・午前—青木・笹・浦嶋)

■ 令和元年度 事業計画 ■

平成31年

4月1日(月)	新年度組織・諸会議準備
3日(水)	新入生ガイダンス(出光佐三記念六甲講堂 宮嶋)
4日(木)	入学式(ワールド記念ホール 青木)
12日(金)	教育実習前実習 講義 人権・同和教育(岡田)・特別活動と学級経営(松田)
16日(火)	教員採用試験対策セミナー(19日 佐谷)
18日(木)	教育実習前実習 講義 道徳の授業(牧坂)・子どもと生活指導(栗木)
19日(金)	教育実習前実習 家庭との連携(青木)
20日(土)	第1回役員会・会誌「紫陽会」40号編集会議(甲陽会館応接室)
22日(月)	HCD実行委員会(米田・中津)

令和元年

5月10日(金)	平成30年度会計監査(松田・柳原)
18日(土)	兵庫教育会総会(岩戸)
24日(金)	学友会常任委員会(青木)
6月3日(月)	教員採用試験対策セミナー(13, 24, 26日 佐谷)
13日(木)	KUC運営委員会(佐谷・笹)
22日(土)	令和元年度幹事会・紫陽会賞推薦・選考
24日(月)	兵庫教育会会館運営委員会(岩戸)
26日(水)	学友会常任幹事会・幹事会(青木・笹・久下)
7月1日(月)	評議員会案内状・資料作成
8日(月)	評議員会打合せ・舞子ビラ(青木・宮嶋・松永・岩戸)
11日(木)	教員採用試験対策セミナー(12日 佐谷)
12日(金)	評議員会案内状・資料発送 完了
8月3日(土)	評議員会・研修会・懇親会(舞子ビラ)
8日(木)	教員採用試験対策セミナー(佐谷)
13日(火)	夏季休館日(～16日)
22日(木)	KUC講演会「世界一の地震国・火山大国に暮らす覚悟」神戸大学海洋底探査センター 長 巽 好幸 教授
9月3日(火)	学友会部会・意見交換会(青木)
28日(土)	武田 廣 学長を囲む懇談会(楠公会館)
10月3日(木)	KUC運営委員会
4日(金)	会誌「紫陽会」40号発行・発送
日()	大学広報誌「風」編集委員会
26日(土)	第14回ホームカミングデー・紫陽会賞贈呈
11月9日(土)	神戸大学六甲祭(～10日・日)
14日(木)	KUC講演会「神戸スイーツについて」加護野 忠雄 名誉教授
日()	紫陽会神戸支部総会
12月 日()	新会員名簿の発送
日()	役員会・学部支援基金委員会 20日(金)
日()	冬季休館日(28～1月3日)

令和2年

1月6日(月)	大学訪問・年度末、年度始め事務打合せ
30日(木)	KUC新春講演会 武田 廣 学長
2月 日()	紫陽会大阪支部総会
日()	紫陽会姫路支部総会
日()	学友会常任幹事会・幹事会
3月25日(水)	卒業式・修了式・卒業・修了記念祝賀会
日()	新入生オリエンテーション ○新年度計画

■ その他行事・参加協力事業 ■

- ☐ 教育史・写真集 販売促進
- ☐ 同期会行事
- ☐ 準会員(活動・就職)就職サポート事業
- ☐ 支部活動支援
- ☐ 大学基金・学部支援金
- ☐ 関係団体行事
- ☐ (株)学術事業会
- ☐ 会員研修の企画
- ☐ 大学企画事業・研究発表会支援

令和元年度 評議員一覧

本部役員

役職	名前	卒・了年
名誉相談役	岡田章宏 櫻井拓哉 西谷木茂樹 青木紫裕正 小佐々木基充 中野下勉	
顧問	小寺澤福一代 關鈴木正二男 鈴木正二郎 高宮嘉昭英周 高宮嶋	明16 26初 28初 34教 34教
会副会長	青木木莊一郎 米田勅 福松永一 松井永一 佐谷章 佐世信 高田隆弘 久下正義 近藤正史 中津のぞみ 津匡哉	51初 35理 38初 40初 46初 56技 61体 H9国文 H14国文 H16国文
事業部 常任幹事	大崎謙介 佐藤敬子 東郷賢治 岩谷口良子 阿波登美 山崎健誠 富士理生 上野浩一 牧坂まさ子 浦寄雄 船本京子 川岡美 岡栗木剛 大西明夫 歳内林堯 中山城芳郎 井口佳代子 安井創一郎 小川和則 大川邦宏 開發智章 赤林智美 小	34初 32初 35初 43国 47初 49養 51社 51教 52初 52初 53初 54初 54教 56衛 57特 34美 43教 46特 50初 52初 53初 54社 H1初 H10修 H11修 H11修
地区組織部 常任幹事	横尾能範 赤山慎重 薩木山慎 米田淳吾 清岡延二 松岡忠吉 實平喜夫 岡部雅幸 中家恭夫 岡田大輔 藤相澤亮 相谷口享 笠井実代 大西良子 高田義弘 大阪藤岡美 東清岡延 丹神居克己 神有戸 中播 淡路 但馬	38衛 H17博 52国 53特 56初 56初 62修 62初 H7修 60衛 H15修 59幼 H12 H13 61体 46衛 56初 H1初 27技 … 60初 … 52心 34初 47初
監事	松田弘 柳原	33初 32初

支部代表

地区	支部	名前	卒・了年
東京		齋藤美佐子	46
大阪		清岡延吉	56
県教委		村田かおり	H1
神戸大学		高田義弘	61
阪神	尼崎	…	…
	西宮	塚西徹	37
	芦屋	山口晋	41
	伊丹	吉田孝平	43
	宝塚	武田義彦	50
	川西	…	42
	三田	酒井隆	56
神戸	戸川	嘉之	60
東播磨	明石	…	…
	三木	飯田弘次	32
	加小	近澤玉幸	49
	多西	丸山隆義	45
	加西	小田和彦	44
	加印	…	…
姫路		米田淳二	53
中西播磨	神崎	太田美孝	50
	赤相	西田美恵子	46
	揖龍	嶋津周平	49
	佐用	豊福秀則	33
	宍粟	森本悦生	27
但馬	香美町	田中啓夫	42
	豊岡	百合岡孝夫	36
	養父	村崎修	59
	朝来	黒川和彦	54
	新温泉	倉田憲一	34
丹波	丹波	佐野忠義	37
	多紀	堀哲哉	59
淡路	洲本	小森基弘	41
	津名	田中一平	52
	南あ	神木修	48

教育学部初等科代表

卒・了年	名前	回生
26	關田不二男	B1
29	谷垣隆哉	B4
30	濱岡吉孝	A3
31		
32	佐藤敬子	B7
33	前田賢一	A6
34	大崎謙介	A7
37	竹田椒子	10
38	福井紘	11
39	原戸浩三	12
41	大濱義弘	14
44	山口かつみ	17
46	平本秀範	19
47	谷口和良	20
50	藤枝聡司	23
51	青木莊一郎	24
52	牧坂浩一	25
54	川本京子	27
57	出谷勝	30
58	姫野俊幸	31
61	岡野武士	34
元	大川和則	37
2	気賀諭志	38
4	國賀直子	40
5	中嶋勇	41
6	牛留章博	42

発達科学部学科代表

学科	名前	卒年
人間発達	中植満美子	H14
人間環境	大西良子	H13
表現行動	阪田真己子	H9

国際文化学部代表

学科	名前	卒年
国際文化	加藤源太郎	H9
国際文化	久下正文	H9
国際文化	小村由美子	H10
国際文化	近藤のぞみ	H14
国際文化	中津匡哉	H16

師範学校代表

出身	名前	卒年
兵庫	川崎チヨ子	20

教育学部教科代表

教科	名前	卒・了年
国語	金城真和	48
英語	花尾道之	35
社会	相澤亮太郎	H15修
数学	高橋敬介	55
理科	上月義昭	H1修
技術	土居克己	27
音楽	阿部英一郎	47
美術	秦修己	39
体育	板羽茂雄	60
家政	岡本和子	43
特教	栗木典子	57
幼児	石川晴実	H4
教育	嶋津一恵	36
心理	小石寛文	42
衛生	横尾能範	38
養教	大平曜子	53
修士	中家崇夫	H14

お悔やみ申しあげます

会誌39号掲載以降に判明した物故者をお知らせいたします。ご冥福をお祈り申し上げます。

*もれている方に気付かれましたら、紫陽会事務局にお知らせください。

物故正会員一覧

令和元年8月末現在

(卒業修了年次順・敬称略)

(明石女子師範は明石師範と略記)

お名前	出身母体	卒業年次	逝去年月	お名前	出身母体	卒業年次	逝去年月
新 宮 ふさゑ	明石師範	昭和元年	不明	不 動 修	教育学部	昭和32年	平成26年5月
中野澤 道 子	明石師範	昭和8年	平成30年4月	勝 野 国 子	教育学部	昭和32年	平成31年1月
太 田 ふみ子	明石師範	昭和10年	平成20年12月	石 井 征 治	教育学部	昭和34年	平成29年9月
秋 山 啓 一	兵庫師範	昭和12年	平成29年12月	福 島 和 輝	教育学部	昭和34年	不明
近 藤 都喜乃	明石師範	昭和17年	平成30年1月	中 尾 晃	教育学部	昭和35年	平成28年11月
高 橋 節 子	教育学部	昭和18年	平成29年11月	船 曳 捷 一	教育学部	昭和35年	不明
富 岡 美千代	兵庫師範	昭和19年	平成29年12月	衣 川 清 馬	教育学部	昭和35年	平成27年10月
今 井 延 市	兵庫師範	昭和20年	平成29年7月	岡 田 俊 逸	教育学部	昭和35年	平成25年
加 藤 貞 子	兵庫師範	昭和23年	平成29年	松 代 京 子	教育学部	昭和35年	平成25年
山 田 愛 子	兵庫師範	昭和24年	平成30年9月	浅 見 忠 明	教育学部	昭和36年	平成29年1月
洲 上 静 雄	兵庫師範	昭和25年	平成30年9月	杉 尾 敏 明	教育学部	昭和36年	平成29年2月
横 山 勝	教育学部	昭和26年	平成28年	田 宮 神 三	教育学部	昭和36年	平成31年3月
林 直 樹	教育学部	昭和26年	平成29年11月	中 原 侖 子	教育学部	昭和37年	平成30年3月
城 平 清 人	教育学部	昭和27年	平成29年8月	山 崎 勝 通	教育学部	昭和37年	平成30年12月
杉 田 隆 三	教育学部	昭和28年	平成25年4月	竹 中 登	教育学部	昭和39年	平成29年11月
屋 山 輝 郎	教育学部	昭和28年	平成26年4月	中 川 宏 子	教育学部	昭和41年	平成28年11月
杉 内 みつ子	教育学部	昭和29年	平成30年8月	安 田 嘉 興	教育学部	昭和42年	平成22年8月
池 上 熙 之	教育学部	昭和30年	平成30年1月	堀 尾 壽 代	教育学部	昭和43年	平成30年10月
武 内 雅 昭	教育学部	昭和30年	不明	赤 山 万里子	教育学部	昭和43年	不明
角 臺 弘 子	教育学部	昭和30年	平成30年7月	桑 田 優	教育学部	昭和43年	平成28年1月
新 家 清	教育学部	昭和30年	平成31年4月	細 川 和 孝	教育学部	昭和44年	不明
吉 田 武 男	教育学部	昭和30年	平成31年	宮 村 まり子	養護教諭	昭和44年	不明
西 山 富美子	教育学部	昭和30年	平成29年10月	辻 浦 史 博	教育学部	昭和45年	平成23年5月
長 谷 郁 子	教育学部	昭和30年	令和元年6月	伊 藤 昇	教育学部	昭和48年	令和元年6月
阿 部 真 澄	教育学部	昭和31年	平成22年4月	谷 杉 直 美	教育学部	昭和53年	平成30年2月
四 鬼 祥 夫	教育学部	昭和31年	平成23年	関 千恵子	教育学部	昭和54年	平成27年1月
大 垣 信 昭	教育学部	昭和31年	平成29年11月	迎 田 紀和子	教育学部	昭和55年	平成21年10月
平 形 秀 也	教育学部	昭和31年	平成20年	河 村 和 子	教育学部	昭和56年	平成28年1月
八 木 盛 栄	教育学部	昭和31年	平成31年1月	銀 羽 丘	教育学部	昭和59年	不明
原 田 貴代子	教育学部	昭和32年	平成30年3月	仲 美 子	教育学部	昭和60年	平成22年3月



第11回学部支援基金委員会報告

学部支援基金委員長 松 永 一 夫

- 学部支援基金委員会要項に従って、平成30年度の支援基金の支出を大学の申し出の事業の必要経費にあてる。
- 平成30年8月4日（土）の「紫陽会評議員会」で承認を得た「基本財産予算」の内「学部支援基金」1,000,000円の範囲で処理をする。
- 学部決定事項を受け、三者相見積を慎重に検討、業者を決定。なお、学部からの支援依頼がある場合、浄財からの支出であるため、今後とも三者相見積をもって検討する。
- 鶴二キャンパス 人間発達環境学研究科 教室用AV設備購入、工事費等
学部見積もり 999,108円について、大学の教育環境整備の必要を認め、支援基金から支出する。

神戸大学国際人間科学部支援基金委員会要項

（名 称）

第1条 本会は神戸大学国際人間科学部支援基金委員会（以下学部支援基金委員会）と称する。

（事務局）

第2条 学部支援基金委員会は、事務局を神戸大学同窓会紫陽会事務局内に置き紫陽会の一委員会として活動する。

（目的および業務）

第3条 学部支援基金委員会は、神戸大学国際人間科学部（以下学部という）における研究・教育の振興を図るため学部が行う次の事業の協力要請を基に支援することを目的とする。

- (1) シンポジウムをはじめとする学部の企画する各種行事
- (2) 海外での研修、留学への補助
- (3) 学部の備品等環境整備
- (4) 学部支援基金の設立
- (5) その目的を達成するために必要な事業

2. 学部支援基金委員会は、前項の目的を達成するため寄付金を募集する。

（役 員）

第4条 学部支援基金委員会には特定の役員を置かず、紫陽会の役員の中から若干名の委員を選出し会務を遂行する。

- (1) 委員長 1 名
- (2) 委 員 若干名
- (3) 監 事 4 名

（委員の選出）

第5条 委員長および委員は紫陽会役員の中から役員会において選任する。

2. 監事は紫陽会評議員の中から役員会において選出する。

（委員長）

第6条 委員長は会務を総理し、学部支援基金委員会を代表する。

（委 員）

第7条 委員は委員長と共に委員会を構成し、紫陽会役員会の委任を受けて会務を掌理する。

（監 事）

第8条 監事は会計および会務遂行の状況を監査する。

2. 監事は学部支援基金委員会および紫陽会役員会・評議員会に出席し意見を述べることができる。

（委員会）

第9条 委員長は委員会を招集し、その議長を務める。

2. 委員会は委員長が必要と認めたとき、または、紫陽会会長または役員会の要請があった場合は委員長がこれを招集する。

3. 委員会は委員会構成員総数の2分の1以上の出席がなければ、委員会を開き議決することができない。

4. 委員会の議決は出席の過半数を持って決し、可否同

数の場合は議長の決するところによる。

5. 前2項については、委任による議決権の行使を含むものとする。

6. 委員会の議決は紫陽会役員会並びに評議員会の承認を得るものとする。ただし、緊急の場合は事後承諾を得るものとする。

（審議事項）

第10条 委員会は次に挙げる事項を審議する。

- (1) 紫陽会役員会より付託のあった事項
- (2) 解散に伴う残余財産の処分
- (3) その他学部支援基金委員会の業務に関する重要事項で委員長が必要と認めた事項

2. 委員会は権限の一部、または全部を紫陽会役員に委任することができる。

（資 金）

第11条 学部支援基金委員会の資金は次のとおりとする。

- (1) 第3条第2項により募集した現金
- (2) 前項の資金から生ずる果実
- (3) その他

2. 学部支援基金委員会の資金は、学部支援基金委員会の業務を行うためのもの以外に支出してはならない。

3. 学部支援基金委員会の資金は、委員会の議決に基づき委員長が管理し、原則として紫陽会の基本財産に入れるものとする。

4. 学部支援基金委員会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

5. 学部支援基金委員会の資金の収支決算は毎年度紫陽会の役員会に図り、かつ、紫陽会評議員会において承認を得るものとする。

（解 散）

第12条 学部支援基金委員会は、第3条の目的を達成した時に解散する。

（残余財産の処分）

第13条 学部支援基金委員会の解散に伴う残余財産は、委員会の決議を経て紫陽会の基本財産に繰り入れる。

（補 則）

第14条 この要項は2017年（平成29年）4月1日から施行する。

令和元年度 学部支援基金委員会

委員長 松永 一夫

委 員 高田義弘・久下正文・岩戸恵子・

笹 信隆・近藤のぞみ

監 事 松田 進・柳原 弘一

会員の皆様のご協力・ご支援を

平成元年3月までにご卒業・ご修了の皆様方へ

特別維持会費納入のお願い

神戸大学が国立大学法人へ衣替えして以降、大学運営にかかわる予算が激減し、各学部とも財政面で逼迫が伝えられてきます。

紫陽会ではその都度会報で報告させていただいておりますが、毎年、大学・学部への支援を可能な範囲で行ってきました。

支援事業を継続していくためには、**ご卒業・ご修了30年目の皆様に「特別維持会費」**をお願いしてまいりました。本年は平成元年3月までの卒業・修了の方々をお願いすることになっています。

なにかとご無理申しあげますが、趣旨をご理解の上、納入にご協力いただくようお願いいたします。

同封しました所定の振り込み用紙に、必要事項をご記入の上、お振り込みいただければ幸いです。

記

- 1. 神戸大学卒業・修了30年を経過した方
 - ①平成元年3月の卒業生・修了生
 - ②平成元年以前の卒業生のうち、現在までに納入のない方
 - ③1口 1,000円 できるだけ5口以上（原則1回）
- 2. 各師範学校卒業生のうち現在まで納入のない方
 - 1口 1,000円 何口でも結構です。（原則1回）
- 3. 翔鶴会からこのたび会員になられた方
- 4. 原則1回にこだわらず、協力してくださる方
任意の金額でお願いいたします

学部支援基金ご協力のお願い

平成16年より神戸大学院人間発達環境学研究科並びに神戸大学発達科学部を目的として「神戸大学発達科学部並びに大学院総合人間科学研究科（発達系）支援基金」を設立し、これまで多くの方の協力をいただけてきました。

発達科学部は国際文化学部と発展的統合し「国際人間科学部」として再出発し3年目を迎えます。地域文化・地域教育の発展充実に寄与してきた歴史と伝統が国際的視野のもとで堅持され、さらなる発展が期待される新生学部への事業を継続していくためには、会員の皆様の心からなる学部への支援をお願いするしかありません。

母校のさらなる発展を期するために、会員一人一人の積極的な協力によって、成果があげられるよう願っています。長期にわたる継続的な支援となりますので、意を汲んでいただきご支援をお願いいたします。

記

応募基金	正会員	1口	10,000円
	準会員	1口	5,000円
応募方法	所定の振込用紙 (今回も同封しております)		
郵便振替	01140-00-84600 (学部支援基金と明示してください)		

会員寄贈図書—その後の状況—

1996（平成8）年の「あなたの著書を大学図書館に寄贈を」との呼びかけ以来、現在312冊もの編著書が寄せられています。ここでは会誌39号発行以降にご寄贈いただいた図書7冊をご紹介します。これらの編著書は発達科学部の図書館内専用書架にあり、自由に閲覧できます。寄贈図書は、紫陽会事務局宛て、下記の「著書寄贈票」を添えてお送りください。引き続き、会員の皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

「ちょっといい話 第13集」

高田 義弘〔教育学部 1986（昭和61）年卒〕 他

各界名士による心洗われるお話。マスタース甲子園参加者とボランティアについて。

「神戸市北区淡河町の学校園史考」

戸田 紘〔教育学部 1964（昭和39）年卒〕

新制中学校設立の経緯を、淡河中学校の具体例を基に考察した。

「続 こえだめ」

藤本 直子〔教育学部 1979（昭和54）年卒〕

くらしの中で気付いたこと、見聞きしたことを書き留めてきたことが本になった続編です。

「川柳句集 蝉しぐれ」

内藤 悠水（邦廣）〔教育学部 1957（昭和32）年卒〕

退職後、川柳の面白さにひかれ、朝日新聞に投稿を始め、自選した句を集大成した自家版である。

神戸大学同窓会紫陽会 著書寄贈票

書名					発行年月日	年	月	日
内容の簡単な紹介 (2行以内で)								
出版社名	定価	頁数	頁	型	A 5判・B 6判・()			
著者氏名								
住所	〒 - - - - -							
電話番号	- - - - -		F		- - - - -			
E-mail								
卒業・修了年次	大正	昭和	平成	年	月			
ご出身母体	【師範学校】 兵庫県御影師範学校・兵庫県姫路師範学校 兵庫県明石女子師範学校・兵庫青年師範学校 兵庫県師範学校・兵庫師範学校 【神戸大学】 教育学部・教育学専攻科・大学院教育学研究科 養護教諭養成課程・養護教諭特別別科 発達科学部・国際文化学部 大学院総合人間科学研究科前期課程 大学院総合人間科学研究科後期課程 (該当するものを○で囲んでください)							

※ 著者以外の方が寄贈者の場合は次にもご記入ください。

寄贈者氏名	〒 - - - - -
住所	〒 - - - - -

※ この票をそのままご使用くださるか、B 5 版でコピーをしてご使用してください。

「河合栄治郎から塩尻公明への手紙 ―師弟関係の神髄―」

中谷 彪〔教育学部 1966（昭和41）年卒〕

河合から塩尻公明への手紙の分析を通して、真の師弟関係とは何か追求したもの。

「現代に生きる塩尻公明と木村久夫」

中谷 彪〔教育学部 1966（昭和41）年卒〕

恩師塩尻公明と教え子木村久夫との交流と「或る遺書について」の背景との多角的分析研究。

「塩尻公明という人 ―写真と解説で見る塩尻公明小伝―」

中谷 彪（塩尻公明研究会）編著〔教育学部 1966（昭和41）年卒〕

「しりとり」

藤本 直子〔教育学部 1979（昭和54）年卒〕

身近で見聞した面白い事、心ひかれた事、様々な思い出を綴ったエッセー集。「こえだめ」「続 こえだめ」の続編。

生涯学習と神戸大学附属図書館利用のすすめ

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味に用いられます。（文部科学省）

神戸大学には、学問分野に対応する6つの図書館および3つの分館と文書資料室があり、卒業生はすべての附属図書館を利用できます。現役で仕事をしている間はできなかった研究をしたり、趣味の世界を広げたりと、附属図書館を活用してはいかがでしょうか。

皆様が寄贈してくださった多数の本は、発達科学部（国際人間科学部 鶴甲第2キャンパス）の人間科学図書館内書架にあり、閲覧することができます。

現在の書架は2代目で、初代の書架が多数の寄贈図書でいっぱいになったため、2015（平成26年）に新しく購入したものです。分かりにくい写真ですが、写真右側がカウンター、すぐ前の閲覧席に紫陽会寄贈図書の書架があります。残念ながら、国際文化学部（国際人間科学部 鶴甲第1キャンパス）には設置していません。



神戸大学附属図書館では、卒業生へのサービスも行われています。神戸大学または神戸大学の前身となる大学等を卒業・修了・単位取得退学された方を対象に、雑誌や貴重図書など以外は館外貸出（6冊まで、3週間以内）もできます。

しかし、この場合は図書館利用証の発行を受ける必要があります。運転免許証やパスポートなど、氏名と現住所を確認できる身分証明書を会館時間内に持参すれば即日発行していただけます。

ただし、1978（昭和53）年以前の入学生は、身分証明書および卒業を証明できる書類（卒業証書（コピー可）、卒業証明書等）が必要です。

附属図書館利用について詳しくは、インターネットで検索あるいは大学図書館に直接お尋ねください。

事務局便り「あじさいの小径」

- ◆ 81歳と18歳の違いについて書かれたのを何度か目にしました。ずいぶん広まっているようです。例を挙げると、

- ・心がもろいのが18歳 骨がもろいのが81歳
- ・まだ何も知らないのが18歳
- もう何も覚えていないのが81歳

シルバー川柳でも、

- ・味のある字とほめられた 手の震え
- ・この動悸 昔は恋で 今病気

いずれも、現実を鋭く指摘しているようであり、我が身を悲哀を込めて語りながら、どっこいまだまだ、と巻き返しを図るしぶとさも感じられます。うんうん、と共感するところもありましたか。

- ◆ 以前は百歳のご長寿は希少でしたが、この頃は人生100年の備えが必要と言われる時代になりました。織田信長を語るとき、人間界の命は儚いものと「敦盛」の一節“人間五十年 下天のうちをくらぶれば・・・”がよく出てきます。その時々、一日、一年をどう生きるか、高齢になっても、若年でも、人それぞれに充実した日々が過ごせるようにしたいものと願います。これも、戦争のない国、平和な時代に生きているからこそ言えることかもしれません。

総務省の人口統計を見ると、大正9年（1920年 第1回国勢調査）の人口ピラミッドはとてもきれいな三角錐形です。昭和30年（1955年）では、戦争などによる30～50歳男性の減少、第1次ベビーブームで形が崩れます。平成25年（2013年）では、85歳以上の高齢者の増加、出生数の減少、中間層では第1次・第2次ベビーブーム、丙午（昭和41（1966）年）等によって、いびつな提灯のような形になります。

社会が変化する要因には様々あり、一人一人の生き方や考え方はそれらと無関係ではあり得ません。

- ◆ 世界的な視野に立って、社会がもつ多くの課題を解決する端緒を開き、よりよい方向に進めていく人材の育成はとても重要です。人を育てるには長い時間と地道な努力が欠かせません。将来を見通して、結果を急がず、じっくり腰を据えて一步一步進めていきたいものです。

2019年7月27日の神戸新聞記事、「神戸大学は、深江キャンパスの海事科学部を改編し、海洋政策科学部（仮称）を新設すると発表した。航行技術に加えて経営や法律にも習熟し、開発権や環境保全といった国際ルールづくりを担う人材の育成を目指す。文部科学省に来春ごろ申請し、2021年4月の開設を目指す。」

他学部や国際人間科学部とともに、これまで以上に素晴らしい人材が多く輩出されることを期待します。

そして、同窓会紫陽会としても、大学のいろいろな取り組みに少しでも支援ができればと思います。

- ◆ 今年度3月には最後の卒業・修了記念謝恩会、卒業修了祝賀会が開催されます。今年度までは、国際文化学部翔鶴会、発達科学部紫陽会それぞれに行われます。しかし、来年度は国際人間科学部初めての卒業生を送り出すに当たり、どのような会とするか十分検討しなければなりません。

ホームカミングデイについても、同様です。あなたにとっての「ホーム」はどこですか。

皆様の投稿をお待ちしています。

地区・支部・教科回生コースの動向や会合について
随想・意見・論評・歴史地誌・趣味等々について

問い合わせ・宛先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-2-19
神戸大学同窓会紫陽会事務局 会誌編集担当
電話078-371-6322 FAX 078-371-6306
Email shiyohkai@kobe-u.com